



Lily's Market

ユリー筋28年 「良いユリを作るために」

私はユリに一目惚れしてから28年間ユリー筋。いろいろな品目を扱っていますが、ユリだけは他の人に渡したくありません。

産地、生産者、球根の状態によって、ユリの品質は大きく変わります。蕾の張り具合、葉の発色、花のつき具合など、ぱっと見で分かります。本当に丹精込めて作られた花は最後まできっちり咲いてくれますよ。熱い想いを持って育てられたユリは輝いて見えて、売る方も力が入ります。買参人も喜んでくれて、「あれ良かったよ」「また同じの頼む」などと、リピートで注文があると私も嬉しいです。

ユリは箱を開けた時の荷姿と手に取った1束、その第一印象で決まります。育成はもちろん荷造りも重要なのです。例えば、ヒノモトは蕾が下向きに付くので、上に向けて束ねて出荷しますが、最近は下向きのままラッピングする人も増えました。市場としても、球根代がかかるなどリスクを取ってユリを育てている生産者の想いを考慮して販売するなど、お互いにより良いユリを作る意志を持って臨む姿勢が必要だと思います。

取材協力：西日本花き(株) 岸 宏行さん



Lily's Seasons



日本一のテッポウユリ 「ユリを通して受け継がれる想い」

私は大学を出て野菜農家を継ぎましたが、朝早くから収穫と野菜の世話、夜は荷造りという生活に耐えられず、たまたま叔父さんがいた花専門農協の土佐市花き農協に入らせていただきました。その農協が、テッポウユリでは栽培本数も品質も日本一と言われる農協だったのです。

ユリ栽培は未経験でしたが、先輩たちが育成法を確立していたおかげで、短い修行期間でもなんとか形にすることができました。しかし、初めの頃は日本一と言われていた品質に追いつけず、苦労も多かったです。ユリが大きくなり過ぎてしまい、先輩から「化け物」と言われたこともありました。

私なりに努力したことが悪く言われて傷つきましたが、先輩たちは遠回しに「もっといいユリを作れ」「勉強しろ」と伝えているんだ、と気づいたのです。それから野菜を育てていたハウスから場所も肥料設計も全て転換し、先輩に追いつける様なユリを作れるようになりました。先輩たちの努力や想いが脈々と受け継がれているからこそ、日本一と言われるテッポウユリが作れるのだと思います。

取材協力：土佐市花卉農業協同組合 岡崎 賢司さん

人生を変えた「花の強さ」 「いけばなで日本と海外を繋ぐ」



Lily's Life

私は華道末生流笹岡のいけばな講師をしています。海外の生徒を迎え、文化の違いに戸惑いながらも、お弟子さんを一人でも多く師範代にしたいと奮闘中です。

実は、以前は中国・東南アジアに関わる貿易の仕事をしており、いずれは売り手として海外に挑みたいという夢を持っていました。そんな充実した日々を過ごしていた私がいけばなの道に進むきっかけは、とある事件でした。

知人が窃盗被害に遭い、家に駆けつけると、荒らされた部屋の片隅に壺いっぱい桜が咲いていました。人の悲しさや愚かさを見守りながらも、凛と咲いている花の強さと美しさ。その姿を見た瞬間、「いけばなをやろう」と心に決めたのです。

入門してすぐ、ジョグジャカルタの記念パーティで家元といけばなパフォーマンスを披露しました。日本独自の花芸術が異文化と融合した美しい化学反応を体感し、パイパー時代の夢が蘇ってきました。これからも異なる文化や多様な人達と交流を深め、いけばなの魅力を世界に伝えていけたら嬉しいです。

取材協力：華道 末生流笹岡 川口 志秀さん

